

## 第4章 整備基本計画

## 1. 全体整備計画

今回の事業では駒込に移築されていた荻外荘の客間棟を元の位置に復原し、現在残されている荻窪の居住棟と合わせ、近衛文麿が居住していた時代の姿で復原し、一般に公開していく。史跡南側は当面、現在の公園としての利用を継続し、南側からの建物の景観を眺める視点場としても活用していく。

主な整備のポイントは以下である。

1. 正門周辺 近衛時代から残る正門と石畳を残し、針葉樹に囲まれていた当時の門まわりの景観を段階的に復原していく。近衛時代からの入り口として体感してもらうため、正門は修理を行い公開時にも実際の出入り口として使用する。
2. 受付・券売所 史跡北側は近衛時代の姿に整備し有料で公開するため、入り口付近に小規模の屋外受付・券売所を設置する。建物は周囲の庭園となじむ外観とする。
3. 北側敷地 史跡北側は管理用の駐車場や自転車置場として利用していく。
4. 北側庭園 昭和前期の近衛時代の姿を示す資料がないため、近年まで子孫により維持されてきた庭園の姿を残しつつ、バックヤードとしても利用していく。
5. 南側玄関まわり 南側の正面玄関を復原するとともに、周囲の樹木なども再現し、新聞などで知られた荻外荘の玄関としての姿を整える。  
また樹木に囲まれた建物の景観と合わせて玄関に至る園路も整備する。
6. 荻外荘主屋 現存する居住棟と移築された客間棟をあわせ、近衛時代の姿の主屋を復原し、一般公開する。
7. 崖線東側 現在のスタジイを中心とした樹林を維持しながらも、段階的には崖線沿いに見られたマツなどの針葉樹林を再生していく。
8. 南側斜面 ツツジなどが植えられていた、建物南側の景観を再現する。
9. 崖線西側 現在も残るマツなどを維持しながらも、段階的には崖線沿いに見られた針葉樹林を再生していく。
10. 南側の開放部分は、現状のまま維持し、イベントなどの際に利用するほか、南側からの視点場として活用していく。



2. 動線計画

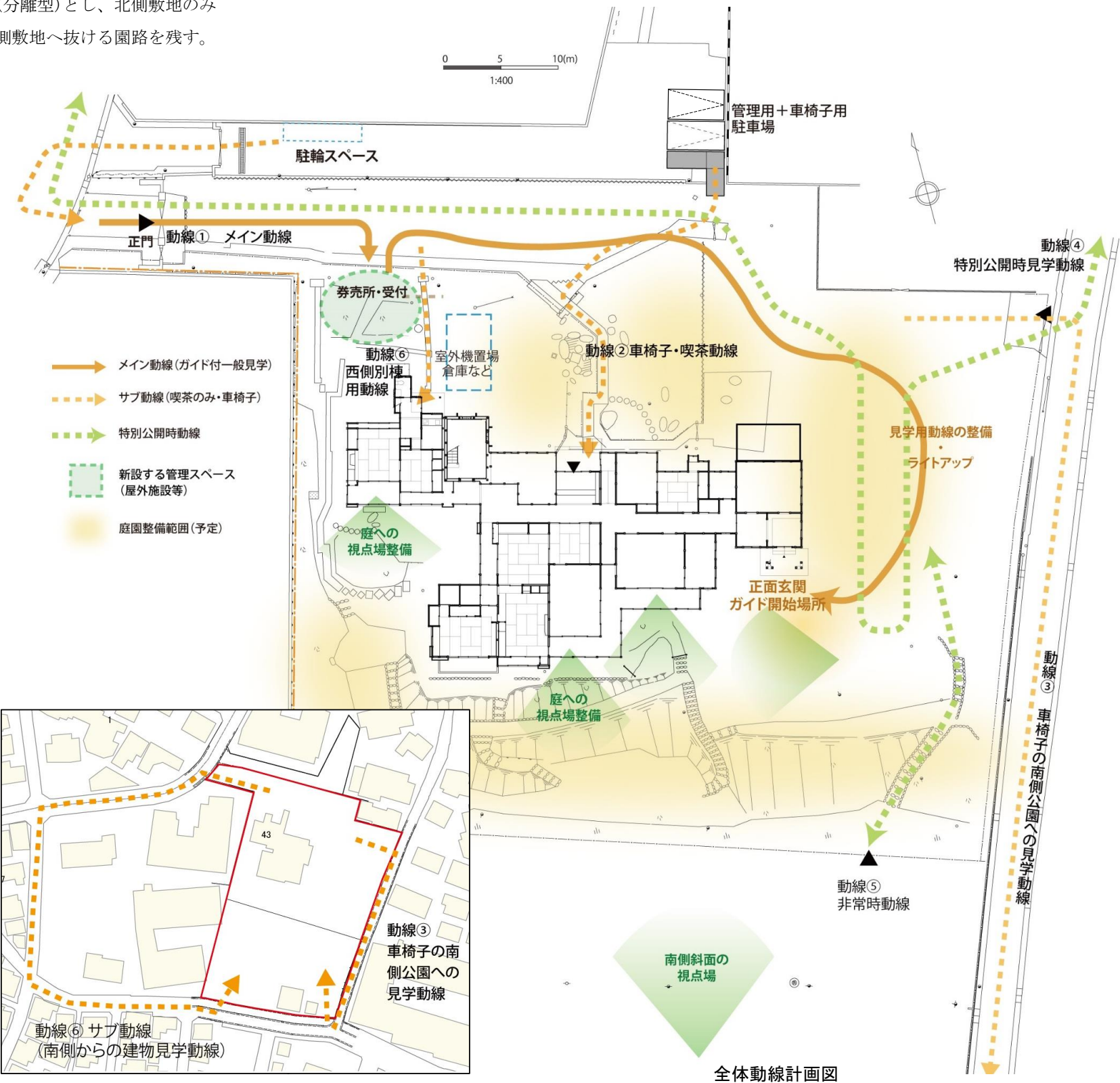
2-1 史跡の利用の考え方

建物・庭園の回遊動線として、南北敷地を公園として自由に通行する A 案(開放型)、史跡内を閉鎖する B 案(閉鎖型)、史跡北側、南側をそれぞれ管理する C 案(分離型)の検討を行った結果、C 案(分離型)とし、北側敷地のみを対象とした動線計画とする。ただし、管理・イベント用として、南側の公園から北側敷地へ抜ける園路を残す。

| C 案(分離型)の考え方     |                                                                                                          |                                                                  |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 管理・運営            | 一敷地・一施設としての管理がしづらいため、敷地南北を分離し、管理する。<br>北側は有料とし、南側は一般の都市公園として開放する。                                        |                                                                  |
| 動線計画・回遊性         | 敷地南北の移動は、東側区道で対応する。<br>車椅子の敷地南北の移動も、東側区道で対応する。                                                           |                                                                  |
| セキュリティ           | 夜間等のセキュリティの確保がしやすい。<br>柵を設置するため、南側芝生広場から斜面地への侵入を防ぎやすい。<br>来場者の斜面地への立入りを防ぐ対策が必要となるため、監視カメラ、立入り禁止区域の設定を行う。 |                                                                  |
| 暫定整備部分<br>(敷地南側) | 復原・整備                                                                                                    | 当面の間、現在の利用形態(史跡指定時点の整備形態)を維持する。<br>将来的には、南側部分も含めた史跡復原・整備も検討していく。 |
|                  | 芝生広場の利用                                                                                                  | 地域に浸透した現在の利用形態を継続する。                                             |
|                  | 敷地南側からの景観                                                                                                | 現在と同様の眺望景観を残す。                                                   |

2-2 外部公開動線

- ・史跡北側は、正門から入場し、券売所で入場料を払う。
- ・券売所は入場券販売のほか、まちあるき案内や区内イベント揭示、フィルムコミッションなどイベント企画の受付場所として整備する。
- ・建物内には南側の正面玄関から入場する。車椅子の方には北側に整備した玄関から入場いただく。
- ・建物を南側から見る場合は、いったん正門から出て西側を周り、南側の公園に入ってもらふ動線とする。
- ・東側の出入り口は、車椅子の方が南側の公園に行くための限定的な門とし、イベント時など来場者が多い場合は 東門を開放するが、有料である旨の標示を設置する。
- ・ライトアップなど特別公開の際は庭園を無料開放する。



全体動線計画図

### 3. 史跡整備にあたって参考とする資料の概要

今後の史跡整備にあたっては、計画の目的にもあるとおり「近衛の政治の場となった昭和 16(1941)年頃を基本に、史跡を当時の状態への復原・整備するとともに、豊かなみどりを享受できる場として整備事業を進める」こととしている。このためには、創建時から近衛居住時にかけての姿を想定し、史跡として整備するための資料が必要となる。昭和 2(1927)年に建てられたのち、昭和 13(1938)年以降は近衛文麿が都内での生活の場兼政治会談の場としていた荻外荘については、建物の位置を示す基礎などの遺構のほか、入澤時代からの写真や図面、新聞や報道写真、その他同時代の記録・文献が数多く残されている。

近衛が居住していた建物のうち、主屋については、荻窪に現存する居住棟のほか駒込に移築されていた客間棟が現存している。移築された客間棟については、荻窪の史跡内にかつての客間棟の基礎遺構が確認されており、元の位置への再移築が可能である。

その他の資料として、入澤時代の古写真や図面、近衛時代の図面のほか、政治会談時の報道写真や新聞記事などがあり、会談の様子とともに、当時の内装などを判断する材料となる。そのほか、当時の平面や使い方などを補足する資料として、当時の新聞記事や、後年出版された関係者の日記・記録などがある。

北側の附属屋については、部分的な発掘調査と配置図などの図面類が確認されているため、建物が存在していたこと、主な配置などは判明するが、古写真などは確認されていない。

庭園については、入澤時代から近衛時代にかけての庭園古写真や配置図、航空写真などのほか、現存する樹木の調査から、当時の庭園の姿を想定することが可能である。また当時近衛文麿が好んで散策していたことから、当時の報道写真や新聞記事などに写る樹木などが参考となる。

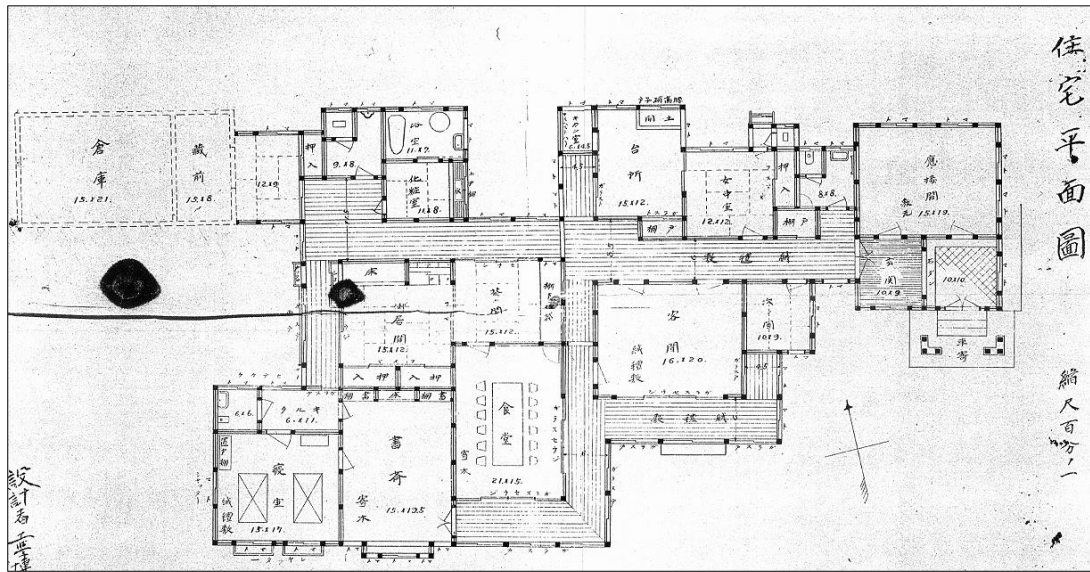
建造物については、居住棟、客間棟の建物が残っているものの、改修が行われている部分が多いことから、昭和前期の外観および内部を復原するための資料として、写真資料が重要な根拠となる。

以下に遺構調査結果ほか、古写真や図面などの主な根拠資料を掲載する。

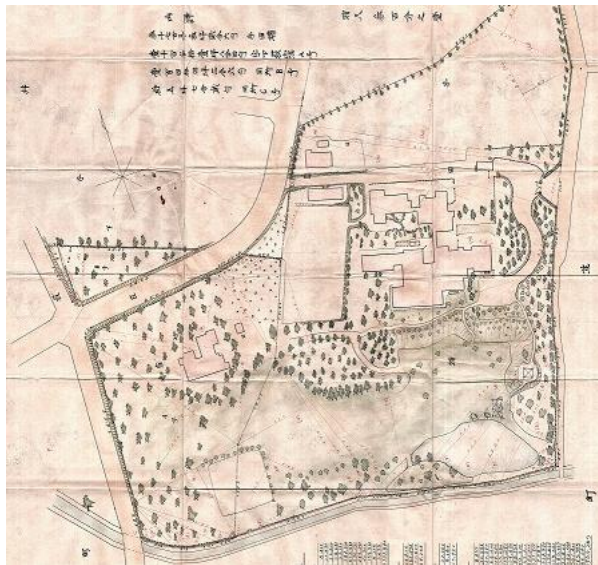


平成 28(2016)年発掘調査全景

## 第4章 整備基本計画



昭和 2(1927)年創建時の平面図 伊東忠太のサインがある図面(杉並区蔵)



昭和 5(1930)年 5 月 入澤時代の測量図(個人蔵)



竣工時の南側車寄せ(個人蔵)



竣工時の応接間(個人蔵)

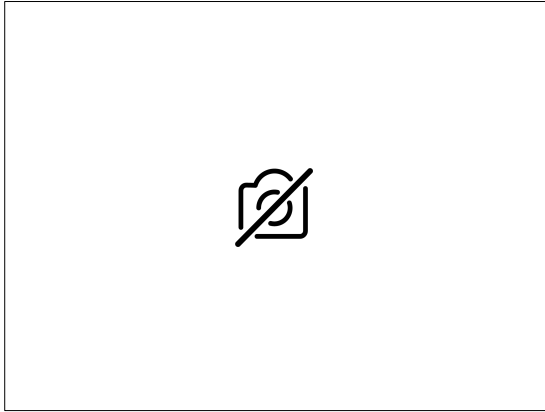


竣工時の食堂(個人蔵)

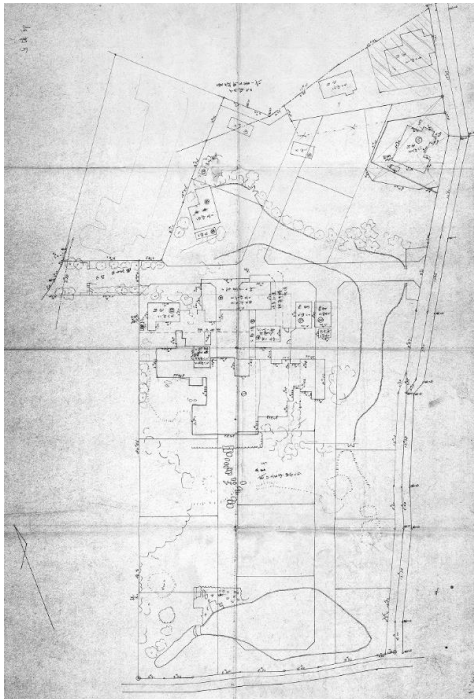
#### 第4章 整備基本計画



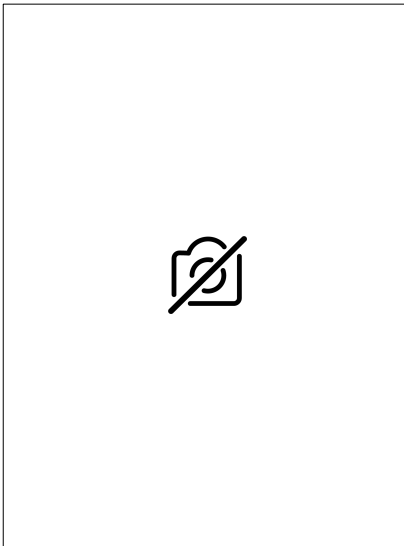
組閣発表を玄関前で待つ記者 昭和 15(1940)年 7 月 16 日  
(朝日新聞社)



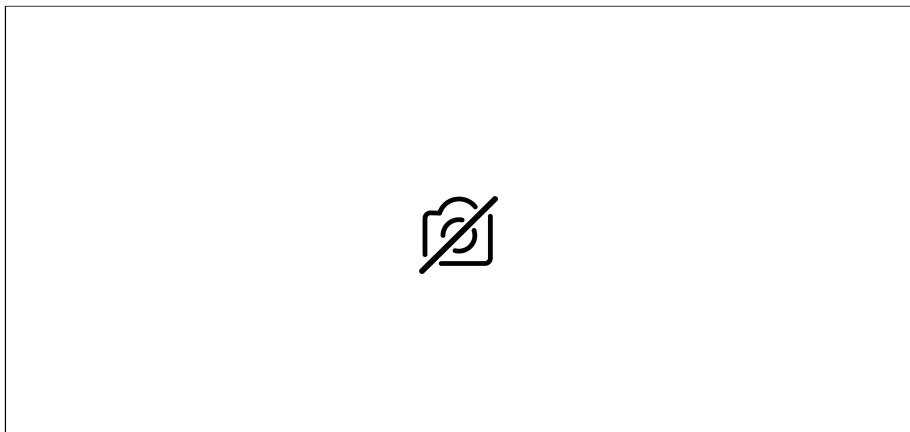
「荻窪会談」が行われた客間 昭和 15(1940)年 7 月 19 日  
(朝日新聞社)



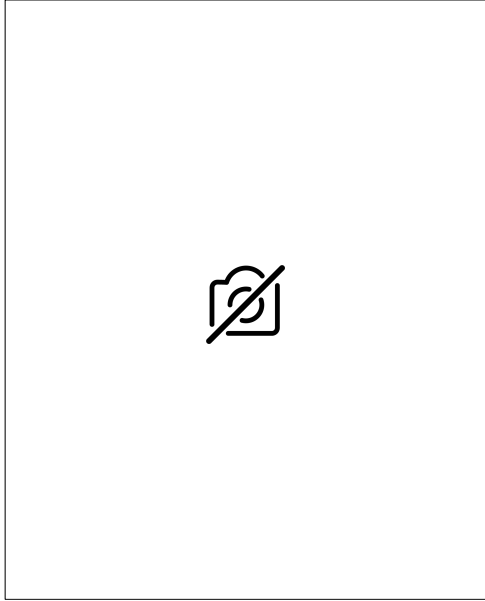
近衛邸配置図 昭和 13(1938)年以降  
正門を現在の西側としてからの近衛邸の配置図(陽明文庫)



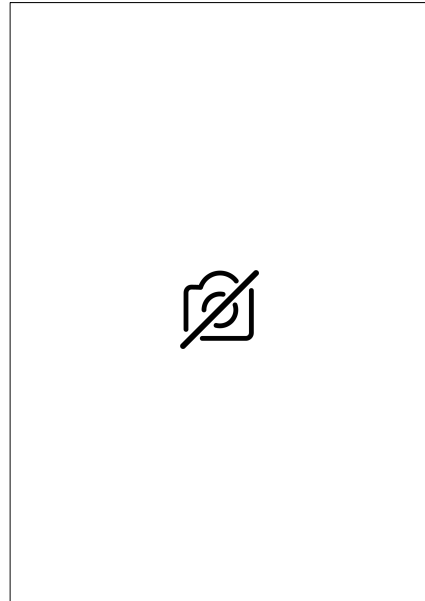
広間 昭和 16(1941)年 7 月 28 日 (毎日新聞社)



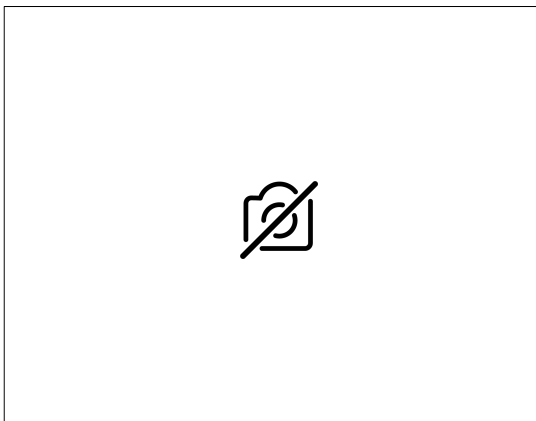
書斎・寝室が改造された後の南側外観 昭和 20(1945)年 12 月 (読売新聞社)



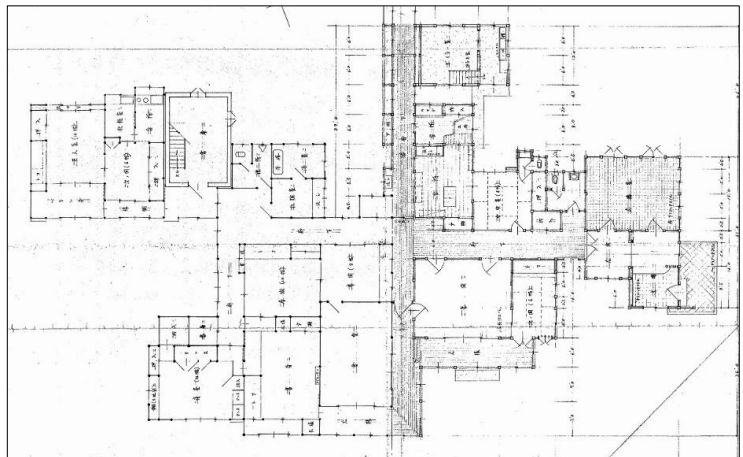
昭和 16 (1941)年 7 月 19 日報道写真 (朝日新聞社)



昭和 16 (1941)年 7 月 18 日報道写真 (読売新聞社)



近衛時代の南側斜面と荻外荘 昭和 19(1944)年 4 月  
報道写真(読売新聞社)



昭和 35(1960)年現況図 昭和 35 年 4 月 25 日の日付があり、客間棟移築前  
の平面図と推定されている。(個人蔵)



近衛時代に和室に改修された書斎 昭和 43(1968)年頃  
(個人蔵)



客間棟移築後の南側庭園 昭和 43(1968)年(個人蔵)